

農地バンクを活用して新規参入者へ技術継承 ～わさび産地を新たな担い手とともに活性化～

地域の状況

いわくにし にしきまち

山口県北東部にある岩国市錦町は、錦(にしき)川の清流と涼しい気候により良質のわさびが栽培されているが、近年は高齢化に伴う担い手不足から、生産量が激減し、産地の維持が困難な状況となっていた。



【バンカーズファーム】



【梅川さん】

キーパーソン梅川さんの取組

- ・(公財)やまぐち農林振興公社理事である梅川仁樹さんは、祖父から続くわさび農家である一方、地域では農業委員会会長として、日頃から、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに、不在地主の農地・売却希望の農地・空き家などの情報を収集して集約・整理し、**新規就農者が農地バンクを活用する際は、出し手との橋渡し役として活動**。地元に関わり込んでもらうよう農家との顔つなぎにも手厚く配慮。
- ・わさび産地活性化のためには、「多様な担い手の確保と農地集積が喫緊の課題」と捉え、関係機関と連携して、地域に即した営農プランや就農支援の仕組みを構築し、実施している。
- ・産地の担い手として培った、**超促成栽培による栽培技術(※)**を、就農希望者に実技指導。就農後も、新規就農者の不安を解消するため、相談役として営農継続を支えている。
- ・令和2年4月には、地域銀行持ち株会社(山口FG)が出資して設立した(株)バンカーズファームから就農相談を受け、農地の確保と併せて、栽培技術・定住先確保の支援を行うとともに、同社と連携してわさびの市場ニーズを踏まえた営農の実現を目指している。

※: 加工用わさびの原料である畑わさびは、手作業に加え栽培期間が長いことから担い手不足を招き生産量が減少。梅川さんたち生産者も協力したコンソーシアムの研究により、栽培期間が大幅に短縮し、生産力向上や収益アップが見込める二毛作を可能にした。

取組の成果:

バンカーズファームの他に3年間で6名の就農を実現!!

(株)バンカーズファーム代表植木さんのお話

- ・山口FGから、地域農業の課題を解決する営農プランを作るよう、特命を受けた。市場動向を踏まえ、どの品目でどのように営農すれば、収益性を高めることが出来るか、地域活性化につながるかを検討。山口県のわさびは商材として優位性があると思っていたが、梅川さんの出会いがあったからこそ道筋を立てることが出来た。梅川さんは、わさびの栽培技術のみならず、マーケットについても知見を持っており、市場に出回る「加工用わさび」は、原料を外国産主体から国産のみに変えれば引き合いが強まるとの事。このため原料の生産力を高める必要があると分析。この観点から、我々が目指すマーケットイン型農業モデルの方向性と合致した。
- ・**就農の際は、梅川さんの協力もあって、ハウス建設が可能な農地を農地バンクを活用して確保出来た。**
わさびの栽培技術も分かりやすく教えてもらっている。我々は銀行員としての経験やネットワークがあるので、新しい発想と営業力で販路を開拓し、生産規模を拡大していきたい。

地域活性化の秘訣(梅川さん)

農地の利用調整だけでは、新規参入者が定着するのは難しい。**農地バンクをはじめとする地域の関係者**が空き家情報等を幅広く掴んで、共有することが大事。今後もバンカーズファームのような多様な担い手とともに、わさび産地の更なる活性化に取り組んでいきたい。